

た。家具や植物、パンという多彩な業種が軒を連ね、今秋にはカフェも開業する予定。一角を「131 SOCO (イチサンイチ・ソウコ)」と名付け、相乗効果で集客増を図る。

既存の建物を改修して機能や価値を高めるリノベーションが注目される中、館林市緑町の住宅街の一角に、古い倉庫やプレハブ小屋を活用したおしゃれな店舗が相次いで出店

倉庫やプレハブ リノベーション

観葉植物を扱うグリーンティレード



素材感

131 SOCOがあるのは、県道前橋館林線の新宿1丁目交差点から南東に1500ほど

生かし、アンティーク家具などを扱う。約3坪の店舗は倉庫の雰囲気や素材感を生かした改装、デザイン性の高い椅子や

植物、パン 多彩な業種

たら面白
いと話す。
施設のり

名称は住所の番地「1丁目3-1」から付け

がいて心強い」とメリノベーションによる店舗を感じている。観葉植物ショップまちづくりの推進

相乗効果

家具店「アンダーグラウンド」の細野健太

は33平方メートルのプレハブ小屋を改装して昨秋開業。素材にこだわったか、約100平方メートルの課題解決につなが

「い」と考え、出店を呼び掛けた。倉庫とプレハブ小屋は資材置き場

パン店「NICO」は33平方メートルのプレハブ小屋を改装して昨秋開業。素材にこだわったか、約100平方メートルの課題解決につなが

3年前に開店したアンダーグラウンドは、天井が高く築年数が経過した倉庫の特徴を



倉庫の雰囲気を生かしたアンダーグラウンド